



神奈川県環境学習リーダー会 会報 No. 33

2003年
6月7日

役員会報告 (事務局長 山田あや子)

6月役員会 6月9日(月)

1. 環境科学センター主催の環境実践者養成講座と足柄上郡小学校家庭科教師研修会の講師依頼があり、詳細については検討していくこととなった。
2. 当会の退会者は、原則として其の時点で、メーリングリストから削除することが了承された。
3. その他「部会報告」「親子で楽しむ環境展」「新部会検討会」からの報告があった。

7月役員会 7月14日(月)

1. 足柄上郡小学校研修会(郡小研家庭科部会) 8月20日の研修会は、水質検査とNO₂の測定を行うことになった。
2. 五領ヶ台高校の総合学習「金目川の自然を守る」の依頼があり、支援をしていくことが決まった。

カット：ヤマユリ

山野に広く自生しています。花の直径は掌大で大きく、強い芳香がします。花びらは反り返り、白地に黄色のすじと赤い斑点が目立ちます。

生い茂る夏草の中にスックと立って、一本の茎に多数の花をつけ、鮮やかです。近年その数を減らしています。

花期は7~8月。神奈川県の花。

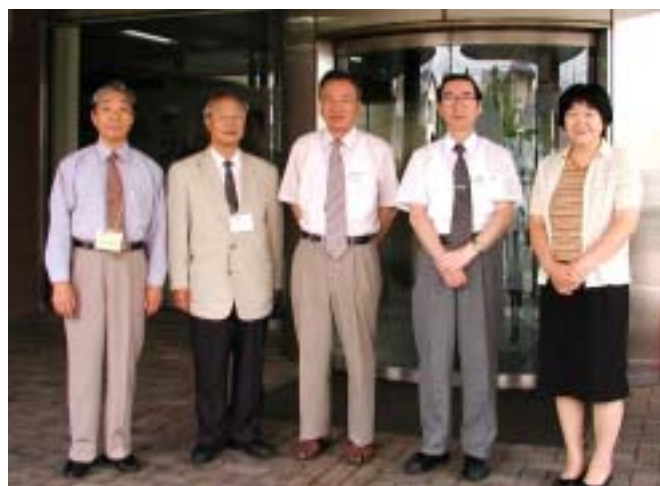
3. 自然観察会は10月18日(土)、19日(日)に決定した。
自然観察のカリキュラムと、同時に行われる意見交換会のテーマについては早急に決めることとした。
4. その他「部会報告」「監事に係わる規約の改訂」「子ども環境体験教室の応募状況」「受託事業などの寄付または協力金の取り扱いについて」などの検討も行った。

新役員、神奈川県環境科学センターを往訪

事務局長 山田あや子

6月26日、k・リーダー会の新役員(近藤代表、石丸副代表、山田事務局長、木本、飛鳥間、黒澤)が環境科学センターの吉見所長を表敬訪問した。情報交流部 塩澤部長、野崎氏及び生駒氏も同席された。

冒頭、吉見所長より「県としては、ISO14001を取得し、範囲を拡大してきた。毎年、知事が環境方針の見直しを実施しているが、今年は新知事になり、教育及び学習/環境情報の提供の推進が重点的取組として方針の中に盛り込まれたことは大いに追い風になると考える。環境学習を引っ張って行って欲しい。」とのお話があった。近藤代表から



左から、石丸副代表、近藤代表、吉見所長、塩澤部長、山田事務局長

らの「イベント等も各地域の自治体から依頼が来るようになって来た。現在、5つの部会を中心にイベントを企画・展示・講演までも受け持っていて。他に、地域に根ざした活動もいろいろな形で芽生えてきている。こういう形を大事にしていくという考えから、地域とのネットワーク構築を考えてい

る。」に依って、所長「k・リーダー会に活躍の場があれば、出来るだけ薦めてやっていきたい。声がかかれば、野崎さんとも相談して積極的に紹介していきたい。市町村でもだいが認知されてきている。k・

リーダー会の良いところは、方向性の違う人たちが集まっている。そういう人たちが情報を取り合うのは非常に質の高いやり取りが出来るのだと思う。そういう意味で素晴らしい集まりだと思う。今の時代に、環境問題を法律や自治体だけでやっていけるものではなく、いかに市民とのネットワークを作ってやっていく

かが重要であるが、簡単な問題ではない。地域の問題をネットワークで解決していくことでは、k・リーダー会が核になって欲しい。現に、地球温暖化防止活動はk・リーダー会が核になっていると聞く。県の財政状態が逼迫していて、十分な予算はないが、ないはないなりに支援していく。(次頁に続く)

(前頁から)

毎年、2月に行われている市民環境活動報告会を楽しみにしている。発表の範囲も幅広いものになってきたと感じる。共催となっているが、是非続けて、盛んにしていって欲しい。」

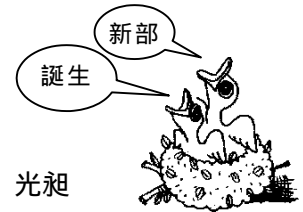
その他、出席の役員より「子ども環境体験教室」を今後も引き続き実施して行きたいと要望したのに対し、来年もやってゆきたいとの話があった。共催

に出来ないかという件に対しては、「共催は、対等な形で双方が負担を応分にということになる。本来は、各地でk・リーダー会が主催で、センターが後援するという形が理想的ではないか。これから相談しながら決めていきたい」という意見が示された。

その後、野崎氏、生駒氏との話し合いでは環境共生都市整備担当の川島氏も交え幅広い意見・情報交換を行った。

地域活動の支援・推進について 地域活動サポート部の新設

新規プロジェクト担当 木本 光昶



昨年末、k・リーダー会が会員の皆さんの地域活動を、より充実させるために地域担当と環境学習の講師・企画運営員を募集しました。

その結果、会報 No.30 でお知らせしたように多数の会員から応募があり、最終的には 65 名から回答を頂きました。

地域担当 28 名、同サポーター 10 名の応募があり、講師 28 名、同サポーター 7 名、企画運営員 21 名、同サポーター 5 名の登録希望者がありました。

この結果を踏まえて、3月6日かながわ県民センターで開催された意見交換会において、「部会活動のあり方」というテーマで地域活動についての提案を行いました。この提案に対して活発な意見交換が行われましたが、最終的には役員会に一任ということになりました(この経緯については会報 No.31 で報告済み)。

そして、これを受けて役員会内に設けた検討会メンバーで慎重な検討を重ねた上、役員会で審議した結果、次のような方法で地域活動を支援、推進することになりましたのでお知らせします。

[地域活動の支援・推進]

1. 「地域活動サポート部」を役員会の中に新設する。

2. 地域活動サポート部の役割

1) これから立ち上げようとする地域活動グループに対して、環境情報(各種イベント情報、行政の環境情報など)の提供、講師の紹介・斡旋、広報活動など、地域活動グループへの支援を行う。

2) 地域活動グループのネットワークの連絡会(情報交換、活動発表など)の開催。

3) 会員活動グループのリスト作成。

3. 地域活動グループの活動内容

地域担当に応募された方が中心になって、次のような活動グループを立ち上げ実践する。

1) 地域行政への各種企画の提案と実践

2) 地域の既存活動団体との協働

3) 地方自治体のプロジェクトの実施主体

4) 環境教育、自然観察、地域美化、ごみ対策、生涯教育、まちづくりなど地域に密着した環境活動

この[地域活動の支援・推進]の説明、これに対する質疑・応答などを行うため、地域活動グループ連絡会の開催を予定しています。

[第1回地域活動グループ連絡会]

1. 開催場所 かながわ県民センター 604号室
(横浜駅西口、三越裏 徒歩5分、
TEL 045-312-1121)

2. 開催日時 8月28日(木) 14~17時

3. 対象者

地域担当応募者、既に地域活動を実践しているグループ並びに参加を希望する会員

4. 議題

1) [地域活動の支援・推進]の説明

2) 地域活動の事例発表

(1) 「ふるさと環境市民の会(綾瀬市)」
近藤作司氏

(2) 「神奈川区環境問題を考える会」
児玉勇氏

(3) 「金目川をきれいにしよう運動」
柳川三郎氏

3) 質疑応答と意見交換

参加を希望される方は8月20日までに、メールまたはFAXで下記に連絡してください(当日申し込み参加も可)。

「連絡先」

木本 光昶

TEL/FAX 045-563-4597

Eメール tkimoto38@ybb.ne.jp

また、今回講師、企画運営員の登録希望された方には、先ず登録希望講師を中心とした勉強会を開催し、相互交流と情報交換することを企画しています。これについても詳細が決まり次第、お知らせします。

第2回「親子で楽しむ環境展」を終えて

実行委員長 北村 博子

6月8日(日)8:40 準備開始。かながわ県民センターで、第2回「親子で楽しむ環境展」は始まった。15年度から新たに、「k・リーダー会」と1部会・4グループ:「廃棄物・リサイクル部会」、「地きゅっ子ひろば」、「平塚をみがく会」、「ね!炭倶楽部」、「自然環境クラブ」:が参加。それぞれ「エコライフ診断」、「剣玉作り・ブーメラン作り体験」、「落書き消し体験」、「笹飾り作り体験」等目新しい体験コーナーで人気を集めた。又、グリーン購入製品・竹炭・飾り炭・竹酢液等今迄に当環境展では扱わなかった、環境に配慮できる生活用品の紹介コーナーも設けることが出来た。

勿論、今までと同様に、3部会・1グループ「ケナフ部会」「環境モニタリング部会」「エネルギー部会」「GO3の会」はそれぞれ「紙漉き体験」「エコカルタ取り体験」「環境パズル」体験コーナーで相変わらずの人気ぶりであった。

子ども達の人気の筆頭体験コーナー、「ブーメラン作り・剣玉作り」のコーナーを少し覗いてみましょう。「どういうところが面白い?」と聞けば、「ブーメランは、やさしいけれど難しい」と返事。「心は、くっつけるのは優しいが、飛ぶように角度を付けるのは難しい。」?「ケナフ紙漉き」を黙々とこなしている子ども達からは、熱中して返事がない。燃料電池ミニカーとドライバーを会場に持ち込んだ小学4年生の強者も。ホバークラフトが机から落ちないのは何故かと、何時までも覗き込む子。「エコカルタ取り」に奮戦の子ども達。環境パズルでお母さん

と楽しむ女の子。魚をじっと見る子。「意識と実践とは違っていましたよ。」とエコライフ健康診断を受けた男性。竹炭の多用な効能にふむふむと納得の女性。前代表清水さんの製作:塩の結晶「かご」に見とれるリーダー。この子ども達から何人の環境リーダーが育つことが。

それにしても何故、k・リーダー会のメンバーは、「会」の仲間が「k・リーダー会」として「環境意識の啓発と普及」のために奮闘している場に、共に集まる事が出来ないのか。一般来場者より仲間が多かったと言うのも困りものだが、出展参加グループ関係者以外のkリーダー来場者がただの「3名」だったと云うのは、本当に情けない。得てして私たちは、若者の「無関心」を嘆くことが多いけれども、「k・リーダー会」のメンバーまでもが、「無関心派」だとは。いい年をした私たちも「又」である。この「無関心病」は、既に日本中に蔓延していて、「日本病」を惹起している。日本が今、「無気力病」に犯されているのと同様に、k・リーダー会にも「無関心病」が蔓延しているのかもしれない。「無関心病」から快復するには、「無関心病原菌」(唯我独尊)に浸食されないリーダー個々人の「免疫力・治療力」(協同精神・協力精神)を高めて、仲よし倶楽部的「自己満足」に陥らない程度の仲間意識を持ってないものか。

来年は、「無関心病」から快復したk・リーダー会のメンバーと、環境展会場で或いは、交流会でお会いできることを今から楽しみにしている。

参加グループと展示・体験コーナー・頒布品一覧

参加グループ	展示・頒布	実験・体験コーナー
ケナフ部会	紙漉き・ケナフ染め	ケナフ紙漉き
環境モニタリング	環境マップ・エコアナライザー	
エネルギー	地球温暖化パネル・燃料電池	電気の実験・カルタ取り
廃棄物・リサイクル	循環社会パネル・エコ製品	エコライフ健康診断
地きゅっ子ひろば	資源の再利用・ソーラークッカー	剣玉・ブーメラン作り
GO3の会	神奈川のゴミカレンダー	地球パズル
平塚をみがく会	落書き消し活動	落書き消し
ね!炭倶楽部	竹炭焼き・竹炭・飾り炭	顕微鏡で見る竹・笹飾り
自然環境	酒匂川の水生生物・地図	
k・リーダー会	リーダーの活動実態写真	

ね!炭倶楽部 笹飾り・環境言葉:
川・動物・世界(各3) ホタル・空気・健康(各2)
虫・魚・省エネ・自然・宇宙(各1)

来場者数

環境クイズ回答紙に基づく数で、データ記入のない回答紙があるので、内訳数合計は総数に一致しない。

回答者総数 : 156名
男性 : 38
女性 : 57

年齢別 10歳以下 : 29
10歳代 : 1
20歳代 : 3
30歳代 : 21
40歳代 : 14
50歳代 : 10
60歳代 : 16
70歳以上 : 9

地域別 保土ヶ谷区 : 19
神奈川区 : 15
中区 : 10

遠隔地: 秋田・群馬・小田原

平成 15 年度「子ども環境体験教室」始まる

予想を上回る応募者数

広報部 木本 光祖

昨年に続いて今年も「子ども環境体験教室」が、環境科学センター主催、k・リーダー会協力で始まりました。

会報 No.32 でお知らせしましたように、前年度の反省を踏まえて 1) 教室数を減らす、2) 開催期間を短縮する、3) 教室の持ち時間を短くするなどの改善が行われた結果、予想を大きく上回る子どもたちからの応募がありました。

各教室の応募者数は次表のとおりです。

	教室名	応募者
1	ツバメ・朝顔で環境チェック	19
2	節電コンセントを作ろう	63
3	ソーラークッカーを作ろう	66
4	写真立てを作ろう	27
5	ケナフ染めに挑戦しよう	29

このように応募者の多かったのはもう一つの理由があったと考えられます。それはk・リーダー会がチラシを会員に配布したり、6月の環境展の参加者に手渡すなど協力したこともありますが、最も効果的だったのは、環境科学センター（担当生駒副主幹）が平塚市内の小学校を中心に対象となる小学生全員にチラシを手渡されるよう努力されたことだと思われる。

このようなイベントの参加者の募集には苦労することが多いのですが、今回のケースは今後の参考になると思います。

そして、環境科学センターやk・リーダー会の関係者の皆様のご努力によって、定員（24名）を超えた「写真立てを作ろう」と「ケナフ染めに挑戦しよう」の2教室は応募者全員が参加できるようになりました。「ソーラークッカーを作ろう」の定員も28人に増員されました。また、「節電コンセントを作ろう」はもう1教室増やし、8月23日（土）に開催することが決まり、より多くの子どもたちが参加できるようになりました。

1) 7月22日（火）「ツバメ・朝顔で環境チェック」

k・リーダー会の猪股、花上両氏が講師となって空気の汚れがアサガオの花や葉へ与える影響とか、自然度を知る指標生物タンポポ、ツバメ、ジョロウグモなどについて学習しました。

その後、屋外で自動車の排気ガスを大きなビニール袋に集め、水に溶かしてpHを調べたり、センター裏の畑でアサガオの葉を調べて大気汚染の影響を観察したりしました。

最後に、子どもたち一人一人に鉢植えのアサガオを「大事に育ててよく観察してね」と渡されて、全

員がありがたいとお礼を言ってうれしそうに帰って行きました。



大気汚染のアサガオへの影響を観察する子どもたち

2) 7月27日（日）「節電コンセントを作ろう」

ビデオ「地球が大へん」を鑑賞した後、北村、下条両講師によって「地球が大へんになっているわけ」を学習しました。

その後、高橋、萩原両講師らの指導により、手回し発電機を使って電気の起きる仕組みを体験したり、節電コンセントを実際に作ってみる経験をしました。

自分たちが作った節電コンセントを持ち帰ってよいことを聞いて、大切そうにかばんにしまいこんでいました。



エコカルタとりに熱中する子どもたち

両教室に共通していたのは、全体に子どもたちは熱心に集中して講師の先生の話の聴いたり、質問したりしていたことです。特に屋外での排気ガスの実験やアサガオの観察などの体験学習が最も生き生きとしていました。手回し発電機を豆電球が切れるまで思い切り回したり、節電コンセント作りで部品をばらばらに分解してしまったりした子どもたちがいて、様々な体験を楽しみかつ没頭している様子が印象的でした。

これから行われる3教室についても、同じような驚きと感動を子どもたちに与えられる教室になることを期待しています。

部会活動

エネルギー部会

部会長 北村 博子

活動報告(5月~7月)

1. 親子で楽しむ環境展参加出展
6月8日10時~ : かながわ県民センター
2. 秦野市「環境家計簿モニター事業」打合せ・・・
講師派遣・・・6月25日
3. 秦野市「環境家計簿モニター事業」
講師派遣 : 7月18日 : 秦野市本町公民館
4. こども環境体験教室 : 出前「少(省)エネ教室」
7月27日(日)10:30~
: 神奈川県環境科学センター
5. エコハマ市民大会パネル展示6月1日
: 浜銀ヴィアマーレ : KELE 支援
(「KELE」: 神奈川県環境学習リーダー・エネルギー会)
6. 横浜市環境月間パネル展示参加 : 支援センター :
6月9日~6月15日 : KELE 支援
7. 出前「省エネ教室」: 「みどり'97会」
: 6月3日 : 横浜市白山地区センター
: KELE 支援
8. 福井県地球温暖化防止活動推進員研修会
講師派遣 KELE 支援 : 6月14日13:30~
: 福井県織協会館

ケナフ部会

部会長 荒谷 輝正

活動報告(5月~7月)

- 5/10.11 「相模原市若葉祭り」ケナフ紙漉、ケナフ
を使った工作物を展示 荒谷
- 5/18 ケナフ部会5月例会を環境科学センターで
開催。圃場のパスライトを取り除き芽を補
植する。
「親子で考える環境展」打合せ
- 5/30 環境科学センター実習室で A3 ケナフ用紙
作成及び圃場の整理
- 6/3 古澤工房(相模原市)を訪問、古紙を使っ
て額縁を作成(「子ども環境体験教室」の教
材検討のため)
- 6/8 「親子で考える環境展」かながわ県民センタ
ー出展
- 6/22 6月例会 環境科学センターで実施
古紙による額縁作りについて、実際に作成し
て問題点を検討した。
圃場の草刈り、及び管理。
- 6/26 三島製紙株式会社原田工場見学(静岡県富

9. 出前「少(省)エネ教室」
平塚市「チビッコチャレンジ教室」
7月12日(土)13:30~
: 平塚市立金目公民館 : KELE 支援

10. 部会
・5月25日(日)14時~17時
かながわ県民センター
・6月22日(日)14時~17時
かながわ県民センター
・7月6日(日)13時~19時
東京ガス環境エネルギー館見学
リサイクルセンター見学
キリンビール見学・予定打合せ

活動予定(8月~10月)

1. 出前少(省)エネ教室 : 「夏休み環境工作教室」
: 8月24日(日)13:30~
: 横浜市白山地区センター : KELE 支援
2. 出前少(省)エネ教室 : 港北区「親子少(省)エネ
教室」: 10月、日時未定 : 場所未定
: KELE 支援
3. 秦野市「環境家計簿モニター事業」
講師派遣 : 10月、日時未定 : 場所未定
4. 部会
・9月28日(日)14時~17時
かながわ県民センター 706
・10月26日(日)14時~17時
かながわ県民センター 602

士市原田)清水前代表のご紹介で実現しまし
た。担当者から、会社の説明、紙の特徴、工
場見学を行い有益な見学でした。

- 6/28 ソレイユ相模原(相模原市男女共同参画推
進センター)男女参画フェスティバルに参加
「紙漉き体験」等を実施 荒谷
- 7/25 秦野市役所主催 「夏休み親子消費者教室」
花染め 早野

活動予定(8月~10月)

- 8/4 海老名市主催「環境科学センター紙漉体験」
開催・・・環境科学センター
 - 8/7 平塚市消費者センター主催「夏休み親子消
費者教室」紙漉 早野
 - 8/20 環境科学センター主催 子ども環境体験教
室「写真立てを作ろう」
 - 8/27 環境科学センター主催 子ども環境体験教
室「ケナフ染めに挑戦しよう」
 - 10/4 相模原市北公民館「大野北ゆめ教室」紙漉
体験 荒谷
- その他、日時が未定なものは割愛させていただきます。

環境モニタリング部会

部会長 佐伯 秀夫

活動報告(5月~7月)

1. 環境モニタリング活動

1) 自然系

・タンポポのモニタリング調査:

5月末迄の調査データ提出は9人から103件。
締切りを延期しているため、未提出データの提出を乞う。環境マップ作成中。

・ツバメのモニタリング調査:

7月末に調査データ提出締切り。

2) 水質系(酒匂川探水隊活動)

・実施日:6月1日(日)、7月21日(月)

・場所:酒匂川水系で実施

・調査結果:6月の調査でも外来種のヨコエビが採取された。ヨコエビの怖さについては、別欄「ヨコエビの恐ろしさ?」をご覧ください。

3) 大気系

二酸化窒素測定調査は、5月24日に捕集管の組立・配布、6月5~6日に試料採集(9人で205本)、6月26日に測定を行った。

2. その他

1) 親子で楽しむ環境展への参加

6月8日開催の同展で、「みんなで作ろう神奈川

の環境マップ」と「酒匂川の水生生物」の2コーナーを担当。

2) 子ども環境体験教室への協力

同教室初日の7月22日、「ツバメ、朝顔で環境チェック」のタイトルで半日体験教室を担当した。

活動予定(8月~10月)

1. 環境モニタリング活動

1) 自然系

・ツバメのモニタリング調査:環境マップ作成

・ジョロウグモのモニタリング調査:9月中旬~11月中旬。県民参加大歓迎。

2) 水質系(酒匂川探水隊活動)

・実施予定日:9月14日(日)、10月12日(日)

・集合場所:JR松田駅前広場、9時

3) 大気系

二酸化窒素の環境マップを作成。

2. 部会開催

・日時:9月20日(土) 10時半~

・場所:かながわ県民センター研修室

・内容:タンポポ・二酸化窒素のマッピング、「子ども環境体験教室」協力結果、外来種の「ヨコエビ」、スケジュール、その他

自然環境部会

自然環境部会担当 高田 重直

活動報告(5月~7月)

自然環境部会の運営方針について検討いたしました。下記運営方針をご参照頂き、メンバーとしてご参加頂きたくよろしくお願い致します。

活動予定(8月~10月)

平成15年度第1回自然観察会兼意見交換会について下記の通りに進めるべく準備を進めておりますので、ふるってご参加頂きたく。

日時:10月18日(土曜日)午後

討論会 相模湖町交流センター

宿泊:「五本松」

(静かな山間に佇む割烹旅館)

10月19日(日曜日)

自然観察会:「森の生態系~水源体験」と

「樹木観察~間伐体験」

自然環境部会運営方針

人間社会は、自然の循環系を損ねて、自然に循環のできないもの即ち、プラスチック廃棄物とか、化

学物質等を大量に排出して自然環境を破壊し続けています。

地球の容量を既に1970年代に越えたことをWWFのエコロジカル・フットプリントが表しています。地球の人口はまだ加速度的に増え続け2000年には60億人をこえ2050年には93億人になると推定されています。既に地球の環境容量を超えているにも拘わらず、さらに人口増加が拍車をかけています。

我々は、この流れに歯止めをかけるため、ライフスタイルを見直し、自然との共生を、まず第一に考えなければなりません。

従って自然環境部会の役割は大きいと考えます。当部会の進め方については、これからじっくり議論して決めるつもりですが、当面の活動計画として以下の事業を進める予定です。

ふるってご参加下さい。

平成15年度の行事

1. 一泊二日の意見交換会(1回)

一泊の予定で自然の観察とk・リーダー会に対するご意見・ご要望を聞く会(勿論自然環境部会に関してもご意見を賜りたく)を開催します。

2. 意見交換会(1回)

一日かけてじっくりとk・リーダー会の運営に関するご意見を賜ります。

3. “NPO 緑のダム・北相模”の「緑のダム体験学校」のカリキュラムに参加し、協働して緑を守る運動を展開する。(1回/2ヵ月)

例:

森林ボランティアいろいろ教室
グリーンな水力発電教室

水源を訪ねる教室

4. “(財)かながわトラストみどり財団”と市民団体と共済事業に参加する。

例:

“西丹沢の自然に楽しもう”(県立丹沢湖ビジターセンター)

“ミニ観察会”(県立自然環境保護センター)

5. その他、水辺の保存観察会等

廃棄物・リサイクル部会

廃棄物・リサイクル部会担当 石丸 博司

活動報告(5月~7月)

1. 「親子で楽しむ環境展」の準備

5月中は定例会も含めて「環境展」の準備に追われました。

5月13日の例会、臨時の5月27日・6月3日の2日間。エコライフ健康診断書作成と集計ソフト・カルテ(診断書)の作成。2枚のパネル「レジ袋はいらない」と「歴史から学ぼう・エコライフ」(江戸時代の循環社会)は女性2人の力作。他にエコ商品「日常生活(石鹸など)」と「エコ文具」の展示・紹介の準備など初めての出展でもあり結構大変でした。

2. 「親子で楽しむ環境展」に出展

6月8日「親子で楽しむ環境展」部会のブースには思ったより多くも人が集まってくれました。「エコライフ健康診断」も18人(組)の方に実施し、診断結果・カルテに喜んでくれました。実施した内1/3はk・リーダー会のメンバーで関心が高かったものと思います。今後の活動に生かせるものと思います。ただエコ商品の紹介や展示方法など工夫する余地も多々あったように思います。

3. 定例会6月15日(日)

定例会を集まりやすい日と思い日曜日に設定していましたが、全員都合が悪くなり出席者がなく中止しました。

4. 定例会7月15日(火)

出席者:黒澤さん、内藤さん、石川さん、石丸
主な課題・最近の活動報告

(1) 生ごみリサイクル全国大会に出席した報告

ビデオ鑑賞「ふしぎ!生ごみリサイクル」微生物の力でよい土づくり。

使えるビデオとの感想

(2) 秦野市「秦野市ごみ削減協議会」に参加して。収集車に同乗、焼却場の視察などごみ削減に向け動き始まる。

座間市「資源回収ルート」から問題点の抽

出、生きピン、死にピンの仕分けと処理の検討など。自治会住人(約50人)の環境教育を進める。

・教育用ビデオ作成中(3本完成)

伊勢原市「市の環境基本計画」市民団体による意見交換会動きはじめる。

8月下旬、10月と伊勢原らしさを生かした(地産地消も含め)ものにする事になる。意見交換会の歯車が合ってきた。9月中旬には市民会議(約50人予定)の機会も設定して展開。自治会および自治連合会とコンタクト始め前進。

(3) 上記の論議から使える環境教育用のビデオを作成してはということで、手持ちのビデオでどんなものが出来そうか編集も含めて、どんなものをつくる必要があるのか、前向きに検討していくことになる。

活動予定

1. 定例会

8月12日(火)13:00~17:00

えびな市民活動サポートセンター

電話(046-235-6835)

9月9日(火)13:00~17:00

8月12日と同じ場所

2. 活動内容

(1) 個々の地域での部会の方針に添った活動を展開していくこと。

・個々の自治体や自治会・連合会その他地域団体への働きかけに向けた活動と連動。地域の事情に応じた動きになると思われるので個々の情報交換を密にしていきたい。

(2) 7月部会で課題になった教育用ビデオの作成に向けて手持ちビデオのインベントリーと作成に向けた検討。k・リーダー会皆様の協力と情報提供をお願いします。

(3) エコライフ健康診断バージョンアップとアプリケーションの開発。

(4) k・リーダー会地域担当の方への支援。

= 豆知識のページ =

こどもエコクラブを作ろう！

広報部 羽生田 洋啓

“こどもエコクラブ”(Junior Eco-Club)の概要と活動例を紹介します。皆さん、地元でこどもエコクラブを作りませんか？！

こどもエコクラブとは

小・中学生が環境活動・学習を行うクラブであり、環境省と都道府県・市町村が連携して推進・支援しているクラブです。ねらいは、環境への関心と理解を深めるための経験を積み重ねながら、環境を大切に作る心と行動力を育むことにあります。

活動内容は、子ども達の興味に基づいて、自然観察・リサイクル活動など、身近にできる環境活動を自由に行うことです。

こどもエコクラブの構成者

小・中学生が数人から数十人と、その活動を支援する大人(サポーター)が1人以上とで構成されます。小・中学生は近所の友達同士、子供会、学校のクラス・クラブなどであり、サポーターは父母、学校の先生などです。

こどもエコクラブの登録

構成者が決まったら、市町村の環境担当課へ登録します(登録費、会費は無料)。登録はいつでも出来ますが、登録有効期間は登録年度の3月までです。続けて活動する場合は4月に再登録が必要です。

県内の登録クラブ数は142、会員数は約2,600人です(7月15日時点)。

登録のメリット

- ・会員手帳、会員バッジの配布
- ・“JEC ニュース”の配布(活動のヒントになる情報など環境情報の掲載)
- ・サポーター向けの“応援マニュアル”の配布
- ・他のクラブとの交流会への参加

こどもエコクラブの例 - 1

“ネイチャークラブ「ぴゅあ隊」”(横浜市鶴見区)は活動を開始して2年目になる子供会のクラブです。このクラブに活動をお聞きしました。

Q: クラブ結成の動機は？

A: 昨年度から毎週土曜日が休校になったことと地域に自然が多いことから、自然観察などを通じて環境保全の学習・実践をしたいという声が出て、クラブを結成しました。

Q: 何人で活動していますか？

A: 子供は小学1~6年生が22名。

大人(サポーター)は4名(主に父親)。

その他に、上記子供の弟妹である幼稚園生と子供の親も一緒に参加したいという希望があり、活動に参加しています。

Q: 活動の内容は？

A: 今年は4、5月(第1土曜日午前)に水質調査(pH、CODなど)をしました。調査した水は水道水、湧き水、池の水、せせらぎの水。

これらの水できれいな水はどれであるか、また、洗濯排水・台所排水をこれらの水に流すとどうなるかを子供たちに知ってもらいました。

現在進行中の活動は(1)借りた畑にビニールシートで池を作り、ヤゴを飼育しています、(2)“葉っぱ判定士”として樹木の二酸化炭素吸収量、酸素放出量の測定をしています。

今後の予定は、(1)鮭の卵を自宅で孵化させて多摩川に放流する、(2)三ッ池の“かいぼり”時に外来魚を調べ、外来魚が自然環境を壊すことを学ぶ、などがあります。

Q: クラブを作る人へアドバイスを。

A: 子供に教えるんだということだけでなく、親子で楽しみながら活動することが良いでしょう。小学生だから親と一緒に出来るのであり、小さい時にやる方が良いでしょう。

こどもエコクラブの例 - 2

“港南台自然観察クラブ・クロロ”(横浜市港南区)は95年6月に結成されたエコクラブ一期生で、今年で9年になる団地のクラブです。このクラブの活動をお聞きしました。

Q: クラブ結成の動機は？

A: 団地の子供会の生きものと親しむ行事の後で、「身近な自然に親しみ、学び、守る活動を通じて、ライフスタイルを見直そう」と自然や生きものが好きな子ども達を集めてクラブを結成しました。

Q: 何人で活動していますか？

A: 今年度は小学生を中心に子供9名。サポーター1名です。

Q: 活動の内容は？

A: 毎月の定例活動として、自分達が住んでいる団地の敷地を散歩して生き物探しをしています。珍しい生き物はいませんが、どこにでもいる生き物と仲良くしています。見つけた生き物は、観察カードに絵と手ざわり・匂い・音などで記録します。図鑑の名前だけでなく自分達でクロロの名前もつけています。今年は毎回の活動の最後に自然についての物語の読み聞かせもしています。

その他季節毎に、紙芝居を使ったホタルを守る活動、セミの羽化観察、巣箱の整備などの特別行事も楽しんでいます。

Q：クラブを作る人へアドバイスを。

A：環境や自然をテーマにした活動は、自分達のライフスタイルの見直しにつながるように一過性でなく息長く続けることが大事だと思います。あ

DVD『知ろう 学ぼう 考えよう 地球温暖化』の紹介

広報部 原園 信夫

日本環境協会から『知ろう 学ぼう 考えよう 地球温暖化』DVDが発売されています。

NHKで放映された環境番組を編集されたもので、温暖化メカニズムとその影響、省エネ・廃棄物取組み等幅広い内容がまとめられています。

平成14年度に環境省が制作し、地方公共団体等〔環境科学センターにもあり、貸し出しも行っていきます〕に配布されましたが、企業や個人でも是非入手したいという声にこたえ、実費頒布を開始しました。

温暖化の原因、影響、対策など30テーマを収録し(約85分)、見たいテーマから見るができます。高精細の迫力ある映像で温暖化の「今」を伝えます。

内容は、

1. 地球温暖化の仕組みと原因

A - 1：地球温暖化のメカニズム

(二酸化炭素に代表される温室効果ガスと温暖化の仕組みを知る)

B - 1：温室効果ガス

(二酸化炭素などの温室効果ガスが、ここ100年ほどで急速に増加していることを示す科学的根拠を紹介)

B - 2：森林破壊

(大量の二酸化炭素を吸収してきたアマゾンの森林が、火災や大規模開発で減少)

2. 影響

氷河湖の決壊。異常気象。エルニーニョ。ヒートアイランド。都市集中豪雨。高潮。温暖化と動植物。水・食料不足を映像で紹介している。

〔約24分〕

3. 防止対策

「世界は地球温暖化とどう向き合うべきか」1992年地球サミットと、その後の国際会議を紹介。クリーンエネルギー〔エコ革命、太陽光発電、風力発電、燃料電池〕。ドイツでの取組み(二酸化炭素の排出削減目標は21%と世界で最も高い値)。省エネルギー〔ミュンスターの取組み紹介〕。リ

まり頑張りすぎずに、できることから着実にやっていきましょう。自然の中では子どもの方がリードしてくれますよ、きっと。

豆知識のページ

サイクル(ミュンヘンの事例)

日本の取組(太陽光発電、エコライフ通信簿、マングローブ植林、秋田県二ツ井町の自転車活用、滋賀県のグリーン購入、名古屋市の生ごみの堆肥化、水俣市の学校版ISO、ハイブリット車、クリーン電力)

4. データベースメニュー、温暖化防止生活メニュー(環の国くらし)

とかなり細かく紹介されています。

小学生、中学生の総合的な学習についても、指導事例がガイドブックに掲載されています。地球温暖化を教える人、地球温暖化を考え、取り組んでいる人にはより理解を深める教材だと思います。

企画制作：環境省

制作協力：(財)日本環境協会

NHK エンタープライズ 21

発行：(財)日本環境協会(複製頒布)

価格：1部1700円(消費税込み、送料別)

問い合わせ先

(財)日本環境協会 DVD担当

TEL 03-3508-2651

FAX03-3508-2570

E-mail jea@japan.email.ne.jp

http://www.jeas.or.jp/



会員の広場

ヨコエビの恐ろしさ？

酒匂川探水隊 斉藤 昭一（1期）

今年の活動のポイントである「ヨコエビ」について酒匂川水系の周辺を調べていくと、行く先々でヨコエビの大群？に出くわす。一体このエビは何処からきたのだろうか？体長が1cmにも満たない小さなヨコエビ、あのロシアのバイカル湖の生態系を崩してしまったといわれる恐ろしい元凶なのだ。

水温0度以下でも耐えられるし、また30度の高温の水の中でも生存できる。さらに、捕獲してその生態を研究中の段階であるが、何のエサも与えずに1ヶ月以上も生存することがわかった。しかも繁殖率が非常に高く、アツという間に数が増えていることである。

今月採集するものからよく分類しているいろいろな形のケースを作り、こまかく観察していきたい。

現段階では酒匂川水系のみの調査であり、他の河川に存在するかは未確認である。もしも他の河川にも「????？」となれば、ゆゆしき問題に成ることは明らかである。

密入国ヨコエビ手配写真

ヨコエビの1種 Crandonyx sp.

形態：

体長約1cm、体色白色～乳白色。

ミズムシに似るがミズムシは各肢を使って川底を這い歩すが、ヨコエビは横になって泳ぐ。

産地：

フロリダから密入国(?)。現在までに酒匂川水系

では以下の地点で確認されている。

仙了川小田急横、小田原市曾比

採集：2002.9.4 杉崎 茂

文命用水永田堰第三水源地、開成町金井島

採集：2002.10.10 杉崎 茂

生態他：

ヨコエビは一般に、清麗な湧水あるいは河川に生息し、河床の有機物を食べて生育する。従って、有機物+きれいな水質といった、相反する環境要素を必要としている。しかし、本種は、下流域の有機汚濁がある程度進行した河川にも見られるので、このヨコエビの出現によってこのグループの印象が変わった。

生態、分布状況などについては詳細不明。神奈川県下では相模川でも確認されている。最近、生息が確認されたようで、20年前の調査では報告がない。

他の生物に対する影響については、よく分かっていないが、同じ河床を利用する多くの底生動物と生息場所が競合するので、何らかの影響があると思われる。ちなみに、ロシアのバイカル湖では、ヨコエビが湖底を占有し多くの固有種を生み出し多様性が高いが、水生昆虫の多様性がきわめて低く、カゲロウは認められない。



ISO14001 と 環境教育活動

4期 横山 滋

私は、現在川崎北部の県立M工業高校に勤務しています。本校は、高校改革の目標として「環境問題への取り組みをコンセプトとする専門高校」を掲げ、「地域に根ざし、開かれた学校」を目指して様々な取り組みを行っています。ここでは、2つの報告をしたいと思います。1つは「ISO14001」への取り組み。2つは、風力・太陽光ハイブリッド発電装置設

置の報告です。

神奈川県は、本庁を対象に2001年にISO14001を取得しましたが、昨年(02年)度からは出先機関(県立高校、医療機関など)に認証対象を拡大しました。本校は、それに先だって、01年9月にEMS(環境マネジメントシステム)委員会を立ち上げ、ISO14001の学習会や職員研修会など取り組みを進めてきました。「県地球温暖化防止推進委員」や「県環境農政部環境管理課職員」を講師に招いて、ISOの意義や内容、教育現場で取り組み意義や展開方法など学習してきました。

昨年度、全日制・定時制を含めた全生徒・全職員

が取り組む体制をつくり、環境目標・著しい環境側面を設定し、県の内部監査や外部監査を受けました。12月には、県のクローズアップ事例に取り上げられ、3月に県の「ISO研修会」で事例研究の発表を行いました。本校の取り組みの特徴は、学校の本来業務である教育活動とISO14001活動を結びつけていることだと思います。環境目標に県の環境目標に加えて、「環境問題への認識を持ち実践力豊かな技術者（グリーンエンジニア）の育成」を掲げました。環境側面に掲げた「ごみの分別やりサイクル」「通学路清掃」などの活動も環境教育活動の一環に位置づけ、P-D-C-Aのサイクルを使いながら取り組んでいます。

自然エネルギーでピオトープを校庭に

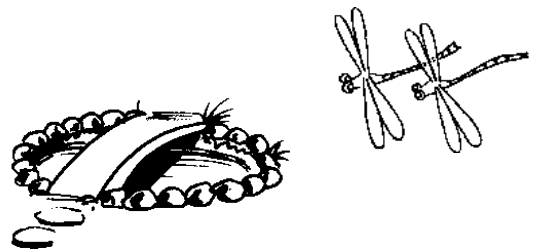
（財）環境エネルギー教育財団の支援を受け、この5月に風力発電と太陽光発電のハイブリッド発電装置が、B棟の屋上に設置されました。足利工業大学のU教授の助言を受け、カットイン風力が小さい（1.5m/s）T社（横浜市港北区）のものを導入しました。

定格発電力は800Whですが、今年度にはもう1

基、同能力のものを設置する予定です。

この装置を環境教育や課題研究（総合的な学習）で使うとともに、地域の市民や保護者を対象にした公開学習会や研修会を企画したいと思っています。

多摩川の岸边近くに立地している条件を生かし、風力発電と太陽光発電のモニタリングデータを蓄積しています。また、現在は校庭の彫像（「羽ばたき」圓鐔勝三氏作）のアップライトの電力に使っていますが、近い将来、校庭に掘っている井戸（建設科の課題研究の取り組み）の動力に利用し、雨水も利用した循環水流の動力に利用したいと思っています。中庭の池を中心にピオトープ作りを目指したいと思いません。かつて、多摩川の流域にも「ホタル」が飛んでいた時代がありました。学校と地域が連携し、多摩川の美しい自然を、多摩川に吹く風と太陽光を利用して取り戻したいと思っています。



環境学習への第一歩

9期生 岩田 寿郎

私は、昭和21年、国民学校に最後の1年生として入学した。その後の日本中の食糧難を子供ながらに、かなり鮮明に記憶している世代である。国土が戦火で荒れ、働き手も整わなかった時代であり、大混乱の時代であった。その後はアメリカのお陰で復興し、一時はパックス・ジャポニカと煽てられる時代も経験した。金があればなんでも買える時代ではある。

しかし、只今のわが国の農業従事者の平均年齢は、65歳超というし、つい最近までの減反政策で耕地は荒れ、安価な輸入農産物が市場を席捲している。しかし、これがいつまでも続くものであろうか？私は懐疑的なのである。これ以上、自給率が落ち込んだ時、市場は、足許を見透かして高価格を設定してくるのではないか？やはり、一見国内生産は割が悪いようにみえても、最低の食エネルギーを賄うことは、政策として不可欠であり、そのコストは国民の負担で守る必要があると考えている。但し、農薬問題はやっかいである。どうやら、農薬の影響で蛙が奇形や絶滅の方向へ進んでいるという。考えるべきことである。

林業も又、然り。森林の実際を知り、少しは役立

つことが出来ないものか、と森林インストラクターにチャレンジした。知れば知るほど、微力ではどうにもならないことが判る。

一番は、木を切っても使い道がないのである。だから、放置しておいて老齢材となっていくのをみている。どうせ、倒木となり、循環していくのなら燃料にして使い、森を更新しようという動きがでている。ひとつの解決策と考える。

私は、環境問題は、ゴミの問題と野生生物の絶滅の問題の2つに尽きるのだ、と教えてもらった。だから、今や定年後の老人として、極力ゴミを出さない生活を心がけ、マイカーは持っていない。近所に僅かに残る小規模な林地は、なるべくそのまま、ないしは20年後戻りさせた森に戻そうと、小さな活動をしている。

定年過ぎてほどない未だ体力もある人達が、野生生物の生き延びていける空間の保全に汗を流し、生活物資を長持ちさせて使う生活態度をとり続けることが、環境問題を議論する前提と思うのだが、如何なものだろうか。



隼より始めよ

7期 渡辺 進次

平成 11 年 11 月に 7 期生として修了、間もなく肝臓がんが発覚し、すぐ入院する羽目になり、今年の 5 月で 6 回の入退院を繰り返しています。そんな訳で環境学習リーダーとしての活動は何もやっておりません。本来、こんな者が本欄へ書く資格はないのですが、折角ですから誌面を汚させていただきます。

私が自然保護に関心を持ち始めたのは、「日本野鳥の会」に入会してからです。早 21 年目になりますが、田舎育ちの私にとっては、自然大好き人間で、とりわけ空を飛ぶ鳥を見ると何とも言えなく気が休まされます。

現在の住まいになって、いつも新緑時季になると「アオバズク」が来て、鳴いていたのですが、ある年からその鳴き声が聞こえなくなってしまいました。これは、おかしいと思ったところ、やはり周辺が、宅地開発され、緑が少なくなっていることに気がつきました。

何か手立てはないものかと案じておりましたら、日本自然保護協会が主催している自然観察指導者養成講座を受講する機会を得て、金田（平）先生をはじめ、柴田敏隆、青柳昌宏（故人）先生と言った蒼々たる講師陣に修了生が加わり、2 泊 3 目で講義と実習を教わりました。自然保護の理念から生態学の基礎など自然観察法をとおしての実践を懇切丁寧に指導を受けたのも昨日のようです。その後、グリーンタフという愛称の連絡会に入り、折りを見ては、バードウォッチングの手伝いの傍ら自然観察を続けております。

昨年、体調の良い時に、日本野鳥の会主催のバードウォッチング案内人研修があり、同会ネイチャースクール所長の安西さんからこれまた分かりやすい指導を受けて参りました。私の場合、いつ入院する羽目になるか分からないので予定が立たず、暇に任せ、勝手な行動しかとれない自分に対し、健康な人

がつくづく羨ましく思います。それでも自分が生かされていることに感謝しております。

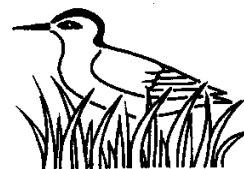
ところで、今は、その筋の専門書はたくさん出ておりますが、もっとも感心するのは、企業が出している環境報告書です。原子力発電所の問題では、東電から諸々の資料を提供していただきました。この中で「総合的な学習の時間」のためのテキストとして「環境学習ブック」（小学校高学年・中学校用）を生徒用と教師用に分けて作成していることです。

また、車関係では、日産自動車が発行している「環境・社会報告書」です。環境マネジメントに約 10 頁ほどを割き、環境方針から各項目について図解により、わかりやすく説明しています。私が、普段利用している石油メーカーのコスモ石油からも環境報告書を送っていただきました。この報告書で目を引くのは、環境中期計画「ブーア（Blue Earth 21）」の策定です。6 つのスローガンと 9 つの「ブーア」を掲げ、環境に対する企業の取り組みと姿勢が、ただならぬ努力をされていることを痛感しました。

私は、今年、自分で出来るところからと思い、横浜市の消費生活推進員（勿論、ボランティアです）を買って出ました。市の条例によると、環境への配慮という条文があって、環境問題と消費生活とは、密接な関係にあることを改めて知りました。

環境問題は、余りにもグローバル過ぎますが、企業は、企業ごとに努力しており、我々市民にとっては、「隼より始めよ」という格言のとおり日常生活の心構えが大切です。

そして、人が行動するには、すべて健康な身体あってのこと、病にあっては、思うように何も出来ない自分に歯痒さを感じます。最後に会員諸兄弟のご活躍を切に期待してペンを起きます。



通信欄から

会計担当 柳川 三郎

会費納入時に振替用紙の通信欄に記入していただいた便りを以下に紹介します。

会費納入の時、皆様の気持ちをメッセージしましょう。振替用紙の通信欄を活用しましょう。

石川延男さん（7期、京都市山科区）からの便り：京都でリハビリ中のため皆さんと部会活動ができ

ませんが、気持ちは一人でケナフ部会をやっていると思い、平塚のタイケナフの種を今年も庭や近所の畑にまいて育てています。

ケナフ部会の情報を楽しみに会報を見ている

齋藤年史さん（6期、川崎市川崎区）からの便り：いつもご苦労様です。そのうち体が許してくれるなら、ご一緒にお会いしたいですね！



「新アジェンダ 21 かながわ(仮称)」の策定にむけて

広報部

持続可能な社会の実現を目指して、より実効性のある取り組みを進めるために、かながわ地球環境保全推進会議(注1)が「新アジェンダ 21 かながわ(仮称)」の策定を進めています。

当会の皆さんをはじめ多くの県民から新アジェンダの骨子に対して出された意見をもとに、このほど「素案」(注2)が作成されました。

今後、新アジェンダに県民・企業・行政の意見・提案を反映させるために、「素案」に対する県民意見募集が行われ、それを反映させた「最終案」が10月末を目標にして作成されます。その間のスケジュールは下記の通りであり、皆さんの積極的な参加が期待されています。

1. 「素案」に対する県民意見募集

8月15日～9月14日

2. 県民シンポジウム

8月23日 13:30～16:30

地球市民かながわプラザ

JR根岸線・京浜東北線 本郷台駅下車

基調講演「持続可能な社会」

講師：東京大学教授 大西 隆 氏

パネル・ディスカッション

当会の近藤代表がパネラーとして出席

3. 県民討論集会

厚木(県央地区・津久井地区)

8月27日(水) 14:00～16:00

プロミティ厚木 大ホール

小田原(湘南地区・西湘地区・足柄上地区)

9月10日(水) 14:00～16:00

県小田原合同庁舎 2階E会議室

4. 「最終案」作成：10月中旬

5. 「新アジェンダ21かながわ(仮称)」の採択 10月24日「推進会議」において。

6. 「新アジェンダ21かながわ(仮称)」県民集会 11月に開催。

(注1) 県民団体、企業団体、県・市町村の93団体で構成

会長：川村恒明県立外語短期大学学長

(注2) 素案の入手方法：

各地区県政情報コーナー、および、かながわ地球環境保全推進会議事務局(県環境計画課内)で配布(8月13日頃より)。

また、県のホームページからダウンロードが可能。

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kankyokeikaku/agenda/index.htm>

ドイツに学ぶ環境教育

講演会&ワークショップを当会が後援

広報部

FoE Japan の事業を後援

国際環境 NGO FoE Japan が「ドイツに学ぶ環境教育」の一環として主催する「エコステーション・フライブルクの実践 講演会&ワークショップ」をk・リーダー会が後援することになりました。FoE Japan は第9回市民環境活動報告会(今年の2月に開催)で基調講演をしていただいた成田正之氏が所属する団体です。

今回の催しのプログラムには我々にとってヒントになることが多くあり、また行政との協業としても理想的なモデルと思われる。地域で子どもたちや市民に対する環境学習を行っている、あるいは、これから行おうとしている方に参加をお勧めします。

詳細及び参加申し込みについては、同封のパンフレットをご参照・ご利用ください。

FoE Japan の紹介

1. FoE Japan の HP から抜粋

1971年、米国の環境運動家、デビッド・ブラウアーが「国際的な環境保護のネットワークを作りたい」

と提唱したのが、「Friends of the Earth (FoE)」の始まりでした。彼の呼びかけに応じた欧州と米国の NGO により「FoE インターナショナル (FoEI)」が創設されました。

その後、世界的な環境悪化を背景として発展途上国や旧共産圏からの参加が相次ぎ、「先進国に偏らないネットワーク」という FoE の基本理念が確立されるに至りました。

現在ではアムステルダムを国際的な拠点として、68カ国に100万人のサポーターを持つネットワークに育っています。また、国連にも正式に承認されている NGO です。各国のメンバー団体は、それぞれが独立して活動する一方、地球温暖化や森林破壊、途上国債務といったグローバルな課題に対しては、共同でアクションを取っています。

FoE Japan は、日本メンバーとして様々な問題に通じたエキスパートが、知識・経験とネットワークを活かしながら、環境問題の解決と、持続可能な社会をめざし、活動を続けています。

(次頁へ続く)

(前頁から)

2. 活動内容、その他

FoE Japan の HP に掲載されていますが、紙面の

環境カウンセラー 募集始まる

平成15年度の「環境カウンセラー募集」が始まりました。

E-mail所有者には、事前説明会(下記)の案内を送りました。

日時 8月18日(月) 13:30~15:30

場所 平塚市民活動センター 2階会議室

(平塚駅南口から海岸方面に向かって右側に
あるJAビルかながわの2階・・・右図)

講師 近藤作司、斉藤美代子、石丸博司

事前説明会へ参加される方は、資料を用意する都合上、下記まで連絡をお願いします。

説明会実施者 石丸博司

TEL & FAX 0463-94-8187

E-mail isimaru@rd6.so-net.ne.jp

本年度の募集要綱は申請書様式等、大きく変更がありますので、出来るだけ参加をお勧めします。

申込者が少ない場合は、事前説明会を中止する場合があります。

掲示板

自然観察会兼意見交換会

事務局兼自然環境部会担当 高田 重直

今年度第1回自然観察会兼意見交換会を下記の通り予定していますので、ふるってご参加下さい。詳細は前記「部会活動 - 自然環境部会」をご覧ください。

日時: 10月18日(土曜日)

午後: 討論会(相模湖町交流センター)

宿泊: 割烹旅館「五本松」

10月19日(日曜日)

自然観察会: 「森の生態系～水源体験」と
「樹木観察～間伐体験」

会計からのお願い

会計担当 柳川 三郎

平成15年度の会費未納者は現在80名です。先にお送りいたしました郵便局の払込取扱票で是非、早めに会費納入をお願いいたします。

会は皆様の努力で各部会をはじめ様々な活動が活発化しています。会費は活動の重要な原資となり

都合から省略します。下記のHPをご覧ください。

<http://www.foejapan.org>

独自にチャレンジされる方は下記から募集要項が入手できますので、入手しチャレンジ願います。

財団法人 日本環境協会

〒105-0003 東京都港区西新橋1-7-2

虎の門高木ビル7階

TEL 03-3508-2651

FAX 03-3508-2570

申請受付期間(募集期間)

平成15年9月1日(月)~9月30日(火)

環境カウンセラー募集要項URL

<http://www.env.go.jp/policy/counsel/files/yoko.pdf>

平塚市民活動センターMAP



ますので、重ねて早めの会費納入をお願いいたします。

振込み先:

郵便局振替番号: 00230-4-30769

神奈川県環境学習リーダー会

編集後記

公園の樹の下へ行くとセミが元気良く鳴いています。このセミの声を聞くと、真夏を感じます。真夏を迎えて学校は夏休みの真っ最中。夏休みは親が、おじいさんが、おばあさんが、大人が子供と一緒に過ごす時間を長くとれる時期。このチャンスを上手く活用したいものですね。こどもエコクラブの取材をしているとき、クラブのサポーターの方が「小学生だから親と一緒に出来るのだ」とおっしゃっておられたのが印象的でした。

今回の会報の発送が遅れたことをお詫びいたします。編集担当者の都合による遅れです。

広報部 羽生田 洋啓

発行人: 神奈川県環境学習リーダー会

代表 近藤 作司

編集人: 広報部長 黒澤 宏

TEL/FAX 0463-88-5193

発行日: 2003年7月31日